

大分市クリエイティブ産業育成事業 おおいたデザイン・エイド2023
『次代のクリエイター発掘! ソーシャルデザインプランコンテスト』 企画書

応募する課題	課題8 愛媛・大分の交流事業の認知向上のためのロゴマークおよびロゴマークを活かしたのぼりのデザイン
氏名	大分 栄子
現状分析・問題抽出 課題一覧の掲載情報や課題提供課へのヒアリング、生活者としての意識等からこの課題をどのように捉えたかをご記入ください	
現状について 大分市を含む大分県9市町と愛媛県9市町で、「えひめ・おおいた交流事業実行委員会」を組織し、圏域内の交流を促進し、圏域の魅力を発信する事業を実施することにより、将来にわたり活力ある圏域経済の形成に寄与することを目的として、実行委員会がさまざまな事業を展開している。 しかしながら、統一的に使用しているロゴマークがなく、実行委員会が実施している事業やイベントなのかどうかの見分けがつかない状況である。	
そもそもの問題はどこにあるのか 多岐にわたる事業を展開しているが、統一的に使用しているロゴマークがないため、実行委員会が実施している事業であることが認識されづらい。	

ビジョン

そもその問題を解決するためには、どのような状態になることが望ましいと考えますか

実行委員会のロゴマークが広く認知され、ロゴマークを見ただけで愛媛県と大分県の相互交流に関連する事業であると認識されること。

プランニング

問題を解決するためのアイデアや、その先のビジョンを実現するためのプランをご記入ください

ロゴマークでビジョンや理念を表現し、実行委員会事業の広報物やPRの際には必ず掲載するというルールを設けることで、ロゴマークおよび実行委員会ビジョンの認知の向上を図る。

デザインコンセプト・提案のポイント

アイデアやプランを実践するためのデザインの役割や問題解決のためのポイントをご記入ください

実行委員会事業は対象が幅広いため、年齢・性別問わず愛されるデザインとする。

モノクロ印刷やネガポジ反転、小さな広報物に掲載する場合など、さまざまな活用方法を想定してロゴマーク使用のレギュレーションを定め、ロゴマークとあわせて頒布する。

現在ロゴマークをのぼりとして展開することは想定されているが、加えてイベント会場の装飾物やイベント時に着用するスタッフのユニフォームにもロゴマークを活用し、このロゴマークを見たら実行委員会事業が開催されていると認識してもらえるよう浸透させる。のぼりや会場装飾、Tシャツ等にロゴマークを使用する際の展開例は提案書を参照。

確認事項

この応募作品は、私が制作した未発表のオリジナル作品です。
*間違いない場合はにチェックをしてください。

*本様式のほか、申請書(様式1)、提案書(A4サイズ、自由様式)を必ず提出してください。